

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(静岡県)

1. 取組についての評価

- ・目標が明確で、県・業界・学校のベクトルが一致している
目的と身に付けて欲しい技術がはっきりしているため、計画・評価がやり易い
一番は県の理解と業界のバックアップ、今後も県・業界との十分な練り合わせが重要
- ・現実の分析をもとにした教育カリキュラムが良く検討されている
座学と実習・研修との連動を生む「UPDATE TIME」
「入学して良かった」は、「夢が叶う・良く見られている・成長を実感」の結果
- ・TとEから始めるSTEAM教育(普通科高校ではMとSからSTEAMに導くことが多い)
様々な視点から、意図的に刺激している
フードクリエイターや未来クエストにも拡大
スズキ(株)の協力と中学生への指導(教えることで、誇り・自信・向上心が育まれる)
- ・「自走化にむけて その4」は大変重要な分析と対策
- ・STEAM教育を軸に、産業界との連携強化を図りながら展開する授業を通して、生徒の業界への興味・関心が高まりつつある
- ・「自分自身をupdateするための時間」を設定することにより、生徒の主体性の高まりや職業観の醸成にもつながっている。
- ・バイターンシップの導入は、生徒の学びと社会とを直接つなげる工夫として、大変参考になった。

2. 今後の課題と考えられること

- ・この事業に対する評価(県・業界)はどうかの調査分析があると良い
生徒の受け入れ先の評価はどうか、事業所の業績向上に寄与できる技術は何なのか
市民県民への公開が、入学希望者の増加に繋がるのではないかと
- ・「エンジニア」と「メカニクス」、コースの違いが分かる教育カリキュラムが欲しい
例として、エンジニアではロボット活用や5軸制御マシニング、メカニクスではEVや自動運転車両の構造と整備など
- ・STEAM教育のねらいと到達目標を、生徒・保護者・県民に共有できると良い
ゴールの姿を校外外に提示して、一年生から計画的意図的に組み込むことが大切
実習の自由度を活用し、課題研究を経て知識・技術の飛躍的な向上が狙えるSTEAM教育を期待
- ・バイターンシップでは、報酬と単位認定の基準が必要になるのではないかと
実施形態は、毎週一定時間勤務か、長期休業中のまとめ取りか
- ・普通科への取組の波及については、普通科の生徒にとっての関連性が今回の発表からは十分に見えなかった。今後は、生徒自身が自らの学びとの関連性について考えることができるような工夫も期待される。